

をまたないのであります。とすれば、高分子化学はそのなかにあつて本命というべく、機能性高分子、生体高分子などがもたらす新しい化学の領域こそ、明日の日本の化学工業の中核にすべき存在でありましょう。

このように考えますと、今年、高分子学会が30周年の記念の祝典を挙行されますことは、われわれにとってこの上なくよろこばしく、またたのもしい快挙でありまして、衷心よりお祝い申しあげ次第でございます。

高分子学会に対するわれわれの期待は、何物にも比べようがないほど大きなものがあります。どうか、今後ますますご発展を遂げられ、日本の化学工業の将来のために業績をおあげになりまして、われわれをご指導賜りますよう心からお願い申し上げます。高分子学会への期待と感謝のことばをもってお祝いにかえさせていただく次第であります。

祝 詞

石油化学工業協会 会長 土方 武



このたび、社団法人高分子学会が設立30周年を迎えられましたことを衷心よりお祝い申し上げます。

顧みますれば、昭和26年に旧(財)日本合成繊維研究協会および旧(財)高分子化学協会を引き継ぎ、貴学会が設立された頃はわが国の高分子科学とその工業の大発展の開始期であり、ポリエチレン、ポリスチレンとも年間わずかに約130tを輸入消費しているにすぎない時期でありました。

その後、わが国の高分子科学とその工業は著しい進歩と発展を遂げ、現在では世界最高の水準に達しており、私どもの協会を取り扱う四大汎用樹脂の年間生産量をみましても、低密度ポリエチレン120万t、高密度ポリエチレン70万t、ポリプロピレン

90万t、ポリスチレン系110万tに達するに至っております。

その間常に高分子科学の学会活動の中心となられ、わが国の高分子科学とその工業の啓蒙、発展に貢献してこられました貴会が設立30周年を迎えられましたことは真にご同慶にたえないところであります。

今日では、高分子材料は私どもの生活の隅々にまで浸透し、それなくしては生活が困難なほどにまで広く利用されるに至っております。私ども高分子材料を供給する者はその社会的責任を十分に認識すると同時に、今後ともより一層有用な高分子材料を社会に供給する責務を負っているものと存じます。

しかしながら、近年の原料事情は30年前には想像もしえなかったほど困難な状況に立ち至っておりますし、また従来の一握りの先進国のみによる供給体制から今日では発展途上国も含めた多くの国による供給体制へと変化してきており、原料、生産、技術開発のあらゆる面で今後ますます国際間の熾烈な戦いが繰り広げられるものと思われ、高分子工業も正に正念場を迎えることにならうかと思われまふ。このような状況下で今後ともわが国高分子工業を世界最高の水準に維持いたしますためには、従来以上にわが国の高分子科学・技術を充実、発展させ、量から質への転換を名実ともに実施する必要があるものと思われまふ。

かかる時代の趨勢を考慮され、21世紀への展望をもって貴会が設立30周年記念事業を企画されましたことは真に時宜を得たものであり、同事業のご成功を祈念いたしますとともに、今後さらに貴会がわが国高分子科学およびその工業の発展のために、ますますご活躍されますことを期待いたしまして、お祝いの言葉といたします。